

「長期的な基礎研究プロジェクト」の3年目の取り組み

コミュニティ人間科学部附置コミュニティ活動研究所は、コミュニティ人間科学部において教育、研究、社会貢献に取り組んだり成果を発信したりして、その取り組みや成果をもってお互いに切磋琢磨し合うことで、学部には所属する教員と学生が社会的役割を果たすための共通の場を提供することを目的としています。そこで、2021年度に「コミュニティ活動研究」の学術的基盤形成を目的として「長期的な基礎研究プロジェクト」（以下、「長期プロジェクト」）を設ける提案をいたしました。

いわゆるコロナ禍を脱して迎えた最初の年度である2024年度には、「長期プロジェクト」の一環として、2つの活動に取り組みました。一つは、遠心的研究活動に位置づく「コミュニティ活動研究所プロジェクト」です。昨年度から実施している「那須英語セミナー」に加えて、今年度も公募を行って、「大学生が関係人口として過疎地域に関わることによる教育効果、および地域活性化効果に関する研究」を採択して取り組み始めました。それぞれの今年度の活動報告をまとめていただきました。授業科目とは違う取り組みですが、どちらのプロジェクトにも学生が参加しています。参加者集めの難しさが課題である一方で、単年度で完結する授業科目と違って、複数年にわたって活動をし、知見を蓄積できる強みがあることも見えてきたように思います。このような成果が、教育プログラムの評価・改善の一助になっていくことが期待されます。

もう一つは、求心的研究活動として、昨年度行った、地域を対象とした他大学・学部の調査法の授業科目との比較検討に続けて、もう少し幅を広げて「コミュニティ活動研究」が大学教育においてどのように認識されているのかを把握して、その学術的基盤形成につなげていくことを目的に、本学部に類似する他大の学部学科の調査法科目、演習科目、地域に関する実習科目、卒業研究・卒業論文の実施状況や内容の比較検討を行いました。地域やコミュニティを対象に構成されている学部は全国的にもまだ新興の学部ですから、このような調査研究を積み重ねて、ある程度標準的で、かつ効果的な、また本学部ならではの特徴を打ち出せるような教育プログラムの確立につなげていきたいと考えています。

1年目から掲載してきた地域実習先の講演の報告は、ご協力いただいている実習先をひととおりお招き終えたので、終了しました。来年度以降、今までとは違ったかたちで地域実習の活動の様子や成果を、学部の記録として蓄積していけるように検討してまいります。

「コミュニティ活動研究」の学術的基盤を形成していくにはまだまだ未熟ではありますが、「長期プロジェクト」の3年目の成果として、ここにその活動の報告をいたします。

2025年2月

コミュニティ活動研究所長 西 島 央